

わが国の理学療法士が10万人を超えたとは言え、一般の社会生活を送る上で理学療法に接する機会はそれほど多いとはいえません。そのような中で、高校生にとっては理学療法士や理学療法は身近な存在の一つとなりつつあります。その理由として、キャリア教育によって多くの職業を知る機会が増えたことに加え、自身や友人・家族が怪我や疾病を患った過程で理学療法士と触れ合う機会が増えていることが挙げられます。今や、高校生の100人に1人が理学療法士を志す時代です。

一昔前は、スポーツ傷害を有する対象者のアスレティックリハビリテーションにかかわりたいとする志望動機を持った高校生が多かったように思います。一方、スポーツ理学療法を職業と考えた場合には脆弱な部分も多く、進路指導を担当する教員や進学塾等から現実の雇用状況に基づいた対応の必要性が指摘された時期もあります。

健康寿命の延伸を具体化する方策としては、“予防と参加”が挙げられます。スポーツと理学療法との関係については、EOIにも示したように、スポーツ傷害を有する対象者の機能・能力の回復や参加を支援するものと、身体の機能向上、精神の集中や快適性、集団での協調性、余暇活動としての社会交流など様々な効用が期待されるスポーツを活動手段としてとらえて、予防や参加を促進するものとに大別されます。後者の多くは、業としての理学療法にとどまらず、理学療法で習得した技術や知識を社会へ適用する要素が色濃く含まれています。スポーツは、その目的、種目、競技レベル、社会環境などに応じて専門的な支援は異なる面があります。また、競争原理の点から、高度な機器・用具の開発の過程やトレーニングを含む対処方法などで科学的な意見交換や情報の開示に大きな制約を伴う場合もあります。スポーツ理学療法の基盤となる学問や技能は実に幅広く、広義の運動学に加えて、臨床医学、婦人科学、栄養、薬物との相互作用、材料や用具、コーチング、集団指導論、学校・産業保健、神経系の制御機構と運動学習の理解と介入など多岐にわたります。最近では、競技生活に区切りをつけた方のリカレント教育として、理学療法が選択されることも少なくないようです。後進の育成の中でコンディショニングトレーナーの側面や、指導者の素養として理学療法を活用いただいているようです。このような点から、“養成と教育”という似て非なる課程で、夢や希望を現実化していく支援を多様化する必要もあるように思います。

本特集で、医師や理学療法士ではないスタッフ間の密接な連携を可能にするスポーツマネジメントに資するコーディネーターの必要性が提案されています。現場でこの領域に関わっている理学療法士の一部には、我こそがコーディネーターとして適任であると自負されている方もいるかもしれません。個別の事案は別として、全体論として関係者のとらえ方は理学療法士の思いとは異なっているようです。このことは、地域・在宅医療においても同様の指摘を受けています。私たちは、周囲からどのような評価を受けているのかにもっと敏感になり、私たちにしかできないことは何かを明確にする必要があります。そして、これまでとは異なる領域や形態で仕事をする上では、謙虚さと粘り強さを今まで以上に考える必要があるようにも思います。組織の力や風向きによっては一時的に主流となったり成果を得ることはあるかもしれませんが、実力を高め等身大の普及・啓発を図っていくことこそが、その流れが途切れることのない本流であるといえます。(内山 靖)

理学療法ジャーナル

(第46巻 第7号)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

2012年7月15日発行(毎月1回15日発行)

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

定価 1,890 円(本体 1,800 円+税 5%)

電話 本誌編集部直通(03)3817-5704

〔2012 年 年間購読料(税込み、配送料
弊社負担)冊子のみ 20,880 円、冊子+
電子版/個人 23,880 円、冊子+電子版/
共有 27,200 円、電子版/個人 20,880 円、
電子版/共有 24,100 円〕

(担当:前野・川上・山崎)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

E-mail: ptj@igaku-shoin. co. jp

印刷所 三 報 社 印 刷 株式会社(03)3637-0005

Web http://www. igaku-shoin. co. jp/mag/ptj/

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎(03)3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2012, Printed in Japan

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有しています。

・ 本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて、業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

・ JCOPY <(株)出版者著作権管理機構委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

●編集顧問●

安 藤 徳 彦
上 田 敏
大 川 弥 生
高 橋 正 明
奈 良 勲
福 屋 靖 子

(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

網 本 和
内 山 靖
金 谷 さとみ
斉 藤 秀 之
高 橋 哲 也
鶴 見 隆 正
永 富 史 子
福 井 勉
横 田 一 彦
吉 尾 雅 春

●編集同人●

伊 藤 俊 一
伊 藤 義 広
稲 員 恵 美
伊 橋 光 二
上 田 陽 之
大 場 みゆき
大 峯 三 郎
岡 西 哲 夫
沖 田 実
小 塚 直 樹
日 下 隆 一
工 藤 俊 輔
酒 井 桂 太
佐 藤 秀 一
関 屋 昇
富 樫 誠 二
富 田 昌 夫
長 澤 弘
長 野 由紀江
中 村 春 基
丹 羽 義 明
濱 出 茂 治
備 酒 伸 彦
深 浦 順 一
福 田 恵美子
二 木 淑 子
星 文 彦
前 田 哲 男
牧 田 光 代
丸 田 和 夫
丸 山 仁 司
諸 橋 勇
山 田 英 司
横 山 有 里